

罪人とともに食べる

「どうしてあなたがたは徴税人や罪人とともに食べたり飲んだりするのか」。

イエスとその弟子たちに向けられた批判です。人を置き去りにするのは、イエスの時代だけではなく残念ながら、どの時代とどの社会にも根強く存在する悪です。

「互いに愛し合いなさい、わたしがあなたがたを愛したように」。

「互いに」とは、教会共同体、人類家族を意味することばです。制限がないはずですが、どうして、わたしは、わたしたちは、制限を付けるのでしょうか。だれもが置き去りにされない社会を築いていくために、主よ、わたしたちの回心の歩みを支えてください。



世界宣教の日

4

わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいけないのです 使徒言行録 4・20

第四日曜日 (10月24日)

ステップ4 愛の実践

「私の兄弟であるこのもっとも小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイ 25・40) …「自己から出て兄弟姉妹に向かうこと」が絶対的に優先であるということです。…「愛の奉仕は…教会にとって本質的に欠くことのできない表現です。」教会は…その本性から必然的に、具体的な隣人愛、また理解、援助、励ましとなる思いやりが生じるのです。

(『福音の喜び』179)



全世界の福音宣教に思いをはせながら、祈りの旅を続けましょう。今週はヨーロッパ大陸のために祈りましょう。

主よ、たくさんの宣教師の誕生の地であるヨーロッパ大陸にあなたの聖霊を注いでください。世俗化が進んでいる現代社会の問題の前に教皇フランシスコに導かれて、創造的な愛で新たにされますように。アーメン。

福音宣教の手 ④

薬指 **「力」**(power)



力についての宣教

イエスは言われた。「神の国は次のようなものである。人が土に種を蒔いて、夜昼、寝起きしているうちに、種は芽を出して成長するが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず茎、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。実が熟すと、早速、鎌を入れる。収穫の時が来たからである。」

(マルコ4・24-29)

「力」。自分より大きな力を信頼することです。効果的な福音宣教は、語りかける人、聞く人の努力というよりも、格別の不思議なわざによる結果です。それは神の力ですが、決して強制的なものではなく、風のようなもので、支え、同伴し、促してくれるものです。種の生命力と同じく、目立たない方法で展開しながら、その存在を疑うほどゆっくりで、そっと働いているのです。



主日の福音から黙想のヒント

先生、目が見えるようになりたいのです (マルコ10.46-52)

かわいそうな盲人バルティマイは単なる視力の回復を望んでいたつもりでした、しかし実際は、それ以上に彼がイエスを見て、イエスに従うためでした。宣教を通して行われる慈善は世界の問題を解決するためではなく、神の愛を共有するためです。

一緒に祈りましょう (共同祈願)

- ☆ 力を合わせて行われる教会慈善事業がいつも主の慈しみの現れでありますように。
- ☆ 全世界で行われている司祭の召し出し育成にキリスト者の物質的および霊的な援助が欠くことがないように。

